

交通網・都市基盤整備調査特別委員会 報告資料

令和元年6月28日

報告事項件名	頁
(1) 足立区総合交通計画(素案)の報告及びパブリックコメントの実施について	1
(2) つくばエクスプレス8両編成化事業の実施について	2
(3) 日暮里・舎人ライナー(新交通システム)の安全対策について	6
(4) 竹ノ塚駅付近鉄道高架化の取組み状況について	7
(5) メトロセブンの整備促進に向けた取組み状況について	10
(6) 有楽町線(地下鉄8号線)の整備促進に向けた取組み状況について	12

(都市建設部)

交通網・都市基盤整備調査特別委員会報告資料

令和元年6月28日

件名	足立区総合交通計画（素案）の報告及びパブリックコメントの実施について						
所管部課名	都市建設部交通対策課						
内 容	<p>足立区総合交通計画（以下「計画」という。）素案及びパブリックコメントの実施について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 計画素案概要について（別添資料1）</p> <p>（1）目指すべき姿 多様な人の移動を支える交通環境の整った「まち」足立 ～区民・地域・事業者・団体・行政が一丸となって地域課題を解決する力「協創力」により、持続可能な交通環境を整える～</p> <p>（2）構成</p> <p>第1章 足立区総合交通計画の概要 第2章 計画改定の視点と対応方針 第3章 交通の目指すべき姿と基本目標 第4章 交通施策と実施事業 第5章 総合交通計画の進行管理</p> <p>2 パブリックコメントの実施について</p> <p>（1）募集期間 令和元年7月1日（月）～令和元年7月31日（水）</p> <p>（2）周知方法及び閲覧配布 ア あだち広報6月25日号及び区HP、SNSによる周知 イ 交通対策課窓口にて資料を閲覧、配布するとともに、区民事務所、中央図書館、区政情報課、政策経営課でも資料を閲覧、配布する。</p> <p>3 今後の予定</p> <table border="1" data-bbox="360 1680 1444 1892"> <thead> <tr> <th>年 月</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年8月</td> <td>パブリックコメント意見結果を報告</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>パブリックコメント等に対する区の考え方を報告 計画を策定</td> </tr> </tbody> </table>	年 月	内 容	令和元年8月	パブリックコメント意見結果を報告	10月	パブリックコメント等に対する区の考え方を報告 計画を策定
年 月	内 容						
令和元年8月	パブリックコメント意見結果を報告						
10月	パブリックコメント等に対する区の考え方を報告 計画を策定						
問題点 今後の方針	今後、パブリックコメントでの意見を踏まえ、区の考え方をまとめ、第3回定例会にて報告し、計画を策定する。						

交通網・都市基盤整備調査特別委員会報告資料

令和元年6月28日

件名	つくばエクスプレス8両編成化事業の実施について
所管部課名	都市建設部交通対策課
内容	<p>つくばエクスプレス（TX）を運営する首都圏新都市鉄道株式会社は、「8両編成化事業」を今年度より実施していくことについて、以下のとおり公表したので報告する。（別紙参照 P3～5）</p> <p>1 事業の概要</p> <p>（1）事業内容</p> <p>ア 8両編成車両の運行に必要な設備関係工事 （秋葉原駅からつくば駅までの全駅、総合基地等）</p> <p>イ 8両編成化に必要な車両の調達</p> <p>（2）供用開始 2030年代前半にサービス開始（予定）</p> <p>（3）事業期間 10年を超える事業期間を予定。</p> <p>（4）概算事業費</p> <p>ア 設備関係工事費 360億円程度（税抜、見込み） （各駅のホーム延伸、車両留置線の延伸、変電所の増強等）</p> <p>イ 車両調達費 未定（必要数量を今後決定）</p> <p>2 事業効果</p> <p>（1）輸送力 1編成当たり6両編成時に比べ30%程度増加</p> <p>（2）混雑率 今後の旅客需要動向を考慮しても朝ラッシュ時間帯の混雑率は150%を下回る程度まで低減することが可能。 （現在は169% 2018年度）</p>
問題点 今後の方針	<p>混雑緩和対策として、現在進められているラッシュ時の25本化（1時間当たり）やロングシート化などが確実に実施されるよう注視していくとともに、8両編成化事業についても事業期間の短縮が図られるよう沿線市区と連携して首都圏新都市鉄道株式会社との協議等を進めていく。</p>

このニュースは、国土交通記者会、ときわクラブ、TX沿線の各記者クラブ及び報道各社にリリースします。

2019年5月31日
首都圏新都市鉄道株式会社



8両編成化事業の実施を決定！ 朝ラッシュ時間帯における抜本的な混雑緩和を図ります

つくばエクスプレス(TX)を運営する首都圏新都市鉄道株式会社(代表取締役社長 柚木 浩一、本社：東京都千代田区)では、混雑緩和を図るため、現在、2020年春実施予定の「25本化事業」※を推進しておりますが、沿線人口は2030年代まで増加し続け、更なる利用者の増加が見込まれます。このため、将来において再度、朝ラッシュ時間帯の混雑と遅延の常態化が懸念されます。こうしたことから、抜本的な混雑緩和対策として「8両編成化事業」を今年度より実施することを決定いたしましたのでお知らせいたします。

※朝ラッシュ1時間の最混雑区間の運行本数を現在の22本から25本に増強する事業

1. 事業の概要

(1) 事業内容

- ① 8両編成車両の運行に必要な設備関係工事(秋葉原駅からつくば駅の全線、総合基地等)
- ② 8両編成化に必要な車両の調達

(2) 供用開始予定時期

2030年代前半にサービス開始(予定)

(3) 事業期間

終電から始発までの作業可能な2~3時間で、日々の安全・安定輸送を維持する保守・修繕等と並行して行う工事になるとともに、当社線は地下と高架の完全立体構造で限定された箇所からの資材搬入となり資材運搬だけでも時間を要することから、10年を超える事業期間を予定しております。

(4) 概算事業費

- ① 設備関係工事費 : 360億円程度(税抜、見込み)
(各駅のホーム延伸、車両留置線の延伸、変電所の増強、総合基地内設備の新増設、機械設備の新増設、信号通信設備の新増設など)
- ② 車両調達費 : 未定(必要数量を今後決定)

2. 事業効果

1編成当たりの輸送力は6両編成時に比べ30%程度増加します。朝ラッシュ時間帯に適切な8両編成車両数を投入することにより、今後の旅客需要動向を考慮しても同時間帯の混雑率は150%を下回る程度まで低減することが可能になります。

※混雑率は、現在の169%(2018年度)から25本化事業の実施により一旦155%程度(2020年度)まで低下する見込み。その後の利用者の増加を見込んでも150%を下回る程度まで低減が可能。

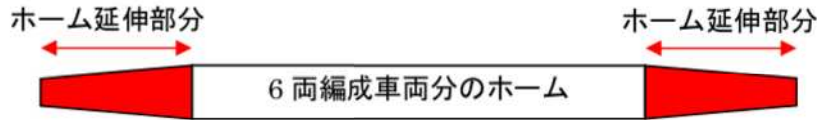
3. その他

- (1) 現在「ホームの安全性の向上」として実施している秋葉原駅及び新御徒町駅のホーム延伸工事は、本事業と一体化して取組んでまいります。両駅の延伸ホームは、駅の混雑緩和を図るため、工事完了後に順次利用を開始する予定です。
- (2) 8両編成化事業に係る工事期間中、ご利用のお客様や近隣住民の方にはご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

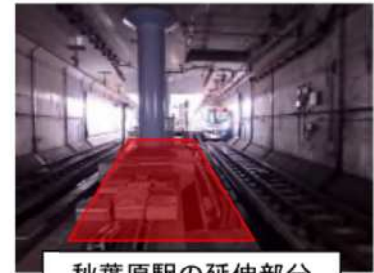
主な工事内容

1. 駅のホーム延伸

地下駅のホーム延伸工事は、現在ホーム混雑緩和を目的に秋葉原駅で実施しています。その事例に基づいた工事内容やスケジュールは以下の通りです。なお、今回、地下駅については基本的に同様の工事になります。



※一部の駅では、片側のみホームを延伸する。



秋葉原駅の延伸部分

工事工程〔秋葉原駅の例〕

	1～3 カ月	4～6 カ月	7～9 カ月	10～12 カ月	13～15 カ月	16～18 カ月	19～21 カ月	供用 開始前 10カ月
① 準備工	■							
② 土木工事		■	■	■				
③ 建築・機械工事			■	■	■	■	■	
④ 電気工事				■	■	■	■	
⑤ ホームドア設置							■	

① 準備工

現地調査、測量、ケーブル類等ホーム延伸部分を支障する設備の移設など

② 土木工事

支柱台座設置、ホーム延伸部分の桁（鉄骨）や床板資材の運搬[※]、設置など



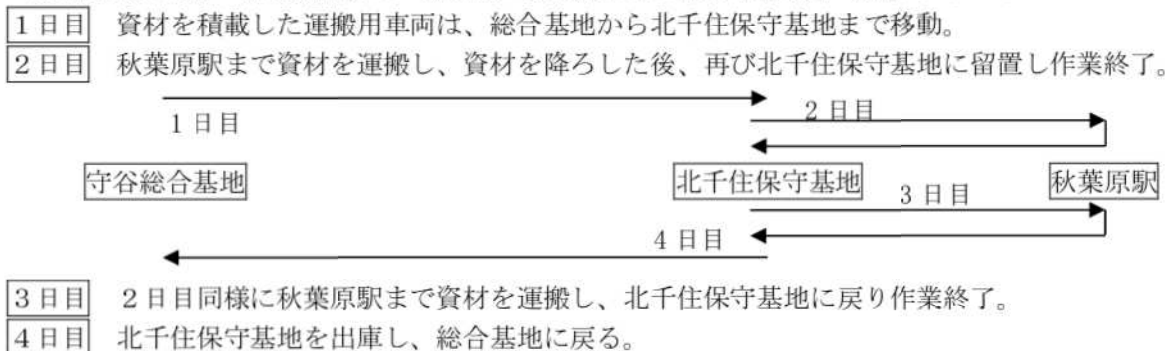
鉄骨の運搬、設置



ホーム床板の設置

※総合基地からレール上を走行する運搬用車両で運搬する。(写真は2011年南流山駅工事時のもの)

<資材運搬の例示（秋葉原駅）>（終電から始発までの作業可能な2～3時間で実施）



土木工事に必要な資材運搬だけで40日程度要する。

- ③ 建築・機械工事
対向壁設置工事、内装工事、空調ダクト工事など
- ④ 電気工事
ホーム照明新設など電力工事
監視カメラ設置など通信工事、信号工事
- ⑤ ホームドア設置



対向壁の設置（南流山駅工事時）

なお、八潮駅や流山おおたかの森駅など高架駅（11 駅）の工事では、ホーム延伸部分の屋根・壁の増設やそれに伴う防音壁の撤去も行います。いずれにしても、駅の規模や駅周辺の状況に応じてきめ細かな施工方法に努めてまいります。

2. 車両留置線の延伸

上記の駅ホーム延伸のほか、8 両編成の車両を留置するため、総合基地及び八潮駅の留置線を車両 6 両（約 120m）から 8 両分（約 160m）に延伸する。

〔八潮駅留置線の例〕



留置線の延伸部分

交通網・都市基盤整備調査特別委員会報告資料

令和元年6月28日

件名	日暮里・舎人ライナー（新交通システム）の安全対策について
所管部課名	都市建設部交通対策課
内容	<p>横浜市を走る新交通システム「シーサイドライン」の逆走事故を受け、新交通システムを採用する日暮里・舎人ライナーの安全対策の取り組み状況について、東京都交通局に確認したので以下のとおり報告する。</p> <p>1 シーサイドラインの事故概要（報道情報）</p> <p>（1）発生日時 令和元年6月1日（土）午後8時15分ごろ</p> <p>（2）場 所 横浜市磯子区の新杉田駅</p> <p>（3）内 容 車両が約25m逆走し車両止めに衝突。 乗客約50人のうち、14人が重軽傷を負った。 車両内の配線が断線したことで正しい進行方向がモーターに伝わらず、逆走が起きた可能性がある。</p> <p>2 日暮里・舎人ライナーの点検対応</p> <p>（1）車両の緊急点検の実施（6月3日～7日）</p> <p>ア 全車両について、車庫内の試走線で機能に問題ないか点検。 イ 指令所や駅のシステムについて、動作記録を確認。</p> <p>（2）駅ホームへの監視員の配置</p> <p>緊急点検期間中は、日暮里駅と見沼代親水公園駅で混雑時間帯を中心に係員を配置して、車両の発車動作の監視と異常時への対応にあたった。</p> <p>（3）点検結果（6月7日 東京都交通局発表）</p> <p>ア 全車両の装置が正常に機能することを確認した。 イ 電気系統に断線があった場合でも同様の逆走は起こらないことを確認した。</p>
問題点 今後の方針	<p>現在事故の調査を行っている運輸安全委員会の事故調査結果が発表になった際、日暮里・舎人ライナーでも安全対策が必要な場合、確実に実施されるよう東京都へ要望していく。</p>

交通網・都市基盤整備調査特別委員会報告資料

令和元年6月28日

件名	竹ノ塚駅付近鉄道高架化の取組み状況について								
所管部課名	鉄道立体推進室竹の塚整備推進課 鉄道関連事業担当課								
内容	<p>竹ノ塚駅付近鉄道高架化の取組み状況について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 竹ノ塚駅付近鉄道高架化に関する主な経過について（別紙参照 P9）</p> <p>2 東武鉄道との施行協定に基づく、平成31年度の事業内容・事業費の協議について</p> <table border="1" data-bbox="424 842 1430 1048"> <thead> <tr> <th>協議</th> <th>協議日</th> <th>事業費 (千円)</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初</td> <td>平成31年4月1日</td> <td>2,547,804</td> <td>高架橋工事、仮線工事、 環境影響評価事後調査 等</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 鉄道高架化工事に関する今後の予定について</p> <p>(1) 上り急行線の仮移設（別添資料2）</p> <p>ア 目的 工事の進捗に伴い、高架橋工事に必要なスペースを確保するため、上り急行線を西側に移設する。</p> <p>イ 移設予定日 令和元年6月28日（金）終列車後</p> <p>ウ 踏切形態の変更 上り急行線の仮移設に伴い、中島部分がなくなり、東側・西側でわかれている2つの踏切が、1つにまとまる。</p> <p>(2) 7～9月の工事工程予定表（別添資料3）</p> <p>(3) 赤山街道への橋桁架設 本年12月頃、第37号踏切（赤山街道）直上への、上り急行線の橋桁架設に伴い、赤山街道は高さ3.8m以上の特殊車両が通行不可となる（一般車両・バス等は通行可）。このため、交通管理者等と調整を進めながら、円滑な通行を目指す。</p> <p>4 区画街路第14号線の進捗状況について（別添資料4）</p> <p>(1) 用地2件取得（総用地数 21件、残り 5件） 取得面積率 約90%（駅前広場東武鉄道用地除く）</p>	協議	協議日	事業費 (千円)	内容	当初	平成31年4月1日	2,547,804	高架橋工事、仮線工事、 環境影響評価事後調査 等
協議	協議日	事業費 (千円)	内容						
当初	平成31年4月1日	2,547,804	高架橋工事、仮線工事、 環境影響評価事後調査 等						

	<p>(2) 今後の進め方 西口駅前広場の整備時期を考慮しながら、丁寧に用地交渉を行うとともに、収用手続きも視野に入れ令和2年度を目途に取得を進める。</p> <p>5 竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会理事会の開催について</p> <p>(1) 開催日 平成31年4月16日(火)</p> <p>(2) 場 所 本庁舎 8階 特別会議室</p> <p>(3) 主な内容</p> <p>ア 竹ノ塚駅付近連続立体交差事業の事業認可(変更)</p> <p>イ 鉄道高架化工事の進捗状況</p> <p>ウ 今年度の予定</p>
<p>問 題 点 今後の方針</p>	<p>1 鉄道事業者との連携や国・都の積極的な協力を得て、早期の完成を目指す。</p> <p>2 着実な事業の進捗に向けて、国庫補助金等の財源確保に努める。</p>

工事着手までの主な経過

年	月	日	出来事
昭和 55 年	7 月	7 日	竹ノ塚駅南側踏切鉄道高架化の請願採択（区議会）
平成 16 年	6 月		踏切対策基本方針（東京都）の策定
平成 17 年	3 月	15 日	37 号踏切事故発生（16:50 分頃、4 名死傷）
	4 月	7 日	鉄道立体化を求める要望書等を区長、議長及び地元代表者が国土交通大臣に提出
	6 月	22 日	第 1 回竹ノ塚駅付近道路・鉄道立体化検討会（国土交通省、東京都、足立区、東武鉄道、東京地下鉄）
	9 月	30 日	竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会結成大会
平成 18 年	3 月	9 日	緊急対策で設置した跨線橋の使用を開始
	4 月		連続立体交差事業の調査が国庫補助採択（翌年 4 月に着工準備採択）
平成 21 年	6 月	23・25 日	都市計画素案説明会開催
平成 22 年	4 月	20・21 日	都市計画案及び環境影響評価書案説明会開催
平成 23 年	3 月	31 日	都市計画決定、環境影響評価書公示
	12 月	20 日	事業認可
平成 24 年	3 月	30 日	東武鉄道と施行協定を締結
	11 月	4 日	起工式

工事着手後の主な経過

年	月	工事内容等
平成 24 年	11 月 ~	家屋事前調査
平成 25 年	3 月 ~	側道付替工事、栗六公園改修工事
	11 月 ~	高架橋工事、仮設地下道関係工事
平成 26 年	4 月	西口新バス乗降場所供用開始（14 日）
	6 月 ~	仮線切替工事（8 回）
	12 月 ~	草加工区工事
平成 27 年	3 月	講演会並びに献花式（15 日）、インフォメーションコーナー開設（31 日）
	10 月	（草加工区）上りホーム（9 日）、下りホーム（14 日）供用開始
平成 28 年	5 月	下り急行線レールウォーク開催（8 日）、下り急行線高架化（29 日）
	11 月	仮設地下自由通路開通（30 日）
平成 29 年	8 月	下り緩行線仮移設、仮設地下改札・仮ホーム供用開始、橋上駅舎の閉鎖、踏切（37・38 号）の中島化（27 日）
平成 30 年	9 月	上り緩行線仮移設、上下線ともに仮ホームに接続（23 日）
平成 31 年	1 月	事業認可変更（事業期間 3 年延伸）（7 日）

交通網・都市基盤整備調査特別委員会報告資料

令和元年6月28日

件名	メトロセブンの整備促進に向けた取組み状況について
所管部課名	鉄道立体推進室竹の塚整備推進課 鉄道関連事業担当課
内容	<p>メトロセブンの整備促進に向けた取組み状況について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 メトロセブンに関する主な経過について（別紙参照 P11）</p> <p>2 令和元年度環七高速鉄道（メトロセブン）促進協議会総会の開催について</p> <p>（1）日時 令和元年7月24日（水） 午後2時から</p> <p>（2）場所 江戸川区総合文化センター</p> <p>（3）参加者 メトロセブン促進協議会会員 江戸川区長（会長）、足立区長（副会長）、 葛飾区長（副会長）、各区区議会正副議長、各区副区長、 交通問題を所管する委員会委員及び区議会からの推薦者</p> <p>（4）主な内容</p> <p>ア 平成30年度事業報告、決算報告、監査報告</p> <p>イ 令和元年度事業計画案、予算案</p> <p>ウ 活動報告</p> <p>エ メトロセブンの整備促進に資する勉強会</p>
問題点 今後の方針	関係自治体と連携し、答申に示された課題解決への取組みを力強く行い、早期整備実現を目指していく。

メトロセブンに関する主な経過について

年	月	内 容
平成 7 年	11 月	東京都知事へ要請活動 以後、平成 10 年度まで継続実施
平成 9 年	4 月	エイトライナー促進協議会と連携宣言
平成 10 年	1 月	「足立区公共交通整備基本計画」で、メトロセブンを今後優先して整備促進を図って行くべき路線として位置づけ
	8 月	エイトライナー・メトロセブン合同促進大会及び大臣への要請活動 以後、平成 16 年度まで継続実施
	10 月	東京都知事へ要請活動
	11 月	都の要望路線として、要望順位（鉄道網充実のため整備すべき路線）に位置づけ
平成 11 年	8 月	運輸大臣へ要請活動
平成 12 年	1 月	運輸政策審議会答申第 18 号 区部周辺部環状公共交通が B 路線と位置づけ（B 路線：今後整備を検討すべき路線）
	8 月	区部周辺部環状公共交通都区連絡会設置 以後、毎年度連絡会を開催
平成 13～14 年度		地下鉄としての導入可能性の検討
平成 15～16 年度		地上系システムの導入可能性の検討
平成 17～18 年度		地下鉄・地上系交通システムの比較検討
平成 19～20 年度		地下鉄整備における段階的整備の区間分割及び整備順序案の検討
平成 21～23 年度		コスト縮減策や運行計画の深度化、需要予測、費用便益分析、収支採算性の検討
平成 23 年	12 月	「足立区総合交通計画」にメトロセブン整備促進を位置づけ
平成 24 年	1 月	18 号答申フォローアップ調査自治体ヒアリング（関東運輸局）
平成 24 年度		地下鉄整備事業費の精査や技術開発等を見据えてのコスト縮減策の検討
平成 25 年度		技術開発を見据えた輸送システム整備の検討や過年度調査結果の確認及び整理
平成 26 年度		過年度の調査結果及び更なるコスト縮減策、次期答申を見据えた考察を整理
平成 27 年	3 月	国土交通大臣、東京都知事へ要請活動
平成 28 年	4 月	交通政策審議会答申「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」 区部周辺部環状公共交通の新設（葛西臨海公園～赤羽～田園調布）が、「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」に位置づけられた。
平成 30 年	3 月～	梅まつり、しょうぶまつり、A フェスタ、光の祭典で P R 活動実施
	7 月	区部周辺部環状公共交通都区連絡会開催 平成 12 年以降、毎年度実施
	7 月	環七高速鉄道（メトロセブン）促進協議会総会を開催 議会と行政が一体となり、平成 6 年以降、毎年度実施
	12 月	メトロセブンに係る中量軌道の課題整理等の調査を実施
平成 31 年	3 月～	梅まつり、桜まつり、しょうぶまつりで P R 活動実施

交通網・都市基盤整備調査特別委員会報告資料

令和元年6月28日

件名	有楽町線（地下鉄8号線）の整備促進に向けた取組み状況について
所管部課名	鉄道立体推進室竹の塚整備推進課 鉄道関連事業担当課
内容	<p>有楽町線（地下鉄8号線）区内延伸の実現に向けた取組み状況について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 有楽町線（地下鉄8号線）延伸に関する主な経過について （別紙参照 P13）</p> <p>2 イベントにおけるPR活動の結果について</p> <p>（1）梅まつり ア 実施日 平成31年3月3日（日） イ 場所 大谷田公園 ウ 主な内容（約250名参加） （ア）PRパネル展示、パンフレット配布、事業説明 （イ）鉄道クイズの実施（小学生以下対象） （ウ）前日、午後5時からのライトアップでのPR</p> <p>（2）桜まつり ア 実施日 平成31年4月7日（日） イ 場所 郷土博物館、葛西用水 ウ 主な内容 （ア）郷土博物館の桜まつり（約2,100名参加） プラレール走行や鉄道模型運転体験の実施 （イ）葛西用水さくら通り流し踊り 有楽町線PR法被で踊っていただきPR</p> <p>（3）しょうぶまつり ア 実施日 令和元年6月1日（土）・2日（日） イ 場所 しょうぶ沼公園 ウ 主な内容（約2,400名参加） （ア）PRパネル展示、パンフレット配布、事業説明 （イ）鉄道クイズ、鉄道模型運転体験の実施（小学生以下対象）</p>
問題点 今後の方針	<p>交通政策審議会答申に示された課題について、沿線自治体との協調や事業採算性などの検討の深度化を図っていく。</p> <p>早期実現に向け、引き続き、促進大会やPR活動等の実施により地域機運の醸成を図っていく。</p>

有楽町線（地下鉄8号線）に関する主な経過について

年	月	内 容
昭和 47 年	3 月	都市交通審議会答申第15号 亀有まで位置づけ（目標年次：昭和60年）
昭和 60 年	7 月	運輸政策審議会答申第7号 今後検討すべき方向として、亀有から先、武蔵野線方面が位置づけ（目標年次：平成12年）
平成 8・9 年度		地元代表者が東京都知事・運輸大臣へ陳情
平成 8 年	2 月	「区東部地域の鉄道網整備に関する基礎調査」を実施
平成 10 年	8 月	「地下鉄8号線誘致に関する勉強会」開催
平成 11 年	3 月	地元代表者が運輸大臣へ陳情
	11 月	運輸大臣・東京都知事あて陳情書提出
平成 12 年	1 月	運輸政策審議会答申第18号 豊洲から野田市までがA2路線（平成27年までに整備着手することが適当である路線）と位置づけ
平成 18 年	11 月	足立区議会が国土交通大臣・東京都知事あて要望書提出
平成 22 年	12 月	東京都都市整備局へ取組状況報告及び要請活動
平成 23～26 年度		国土交通省鉄道局・東京都都市整備局へ取組状況報告及び要請活動
平成 23 年	12 月	「足立区総合交通計画」に地下鉄8号線整備促進を位置づけ
		「足立区議会地下鉄8号線整備促進議員連盟」発足
平成 24 年	6 月	「平成24・25年度 地下鉄8号線整備に向けた調査」を実施
平成 26 年	2 月	「地下鉄8号線整備促進に向けた講演会」開催
	5 月	国土交通大臣へ足立区を含む沿線自治体で要請活動
	6 月	「平成26年度 地下鉄8号線整備に向けた調査」を実施
	11 月	東京都知事へ要請活動 「地下鉄8号線整備促進大会」開催
平成 27 年	6 月	国土交通大臣へ足立区を含む沿線自治体で要請活動
	7 月	「平成27年度 地下鉄8号線整備に向けた調査」を実施
	11 月	国土交通大臣へ要請活動及び地域住民から 53,497 筆の署名を手渡し
	12 月	東京都都市整備局へ取組状況報告及び要請活動
平成 28 年	1 月	「地下鉄8号線整備促進に向けた講演会」開催
	4 月	交通政策審議会答申「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」東京8号線（有楽町線）の延伸（押上～野田市）が、「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」に位置づけられた。
	8 月	「平成28年度 地下鉄8号線整備に向けた調査」を実施
平成 29 年	7 月	「平成29年度 地下鉄8号線整備に向けた調査」を実施
平成 30 年	3 月	沿線小学校4・5年生を対象にPRイベント「ゲーム シムシティ・ビルドイットでまちをつくろう」を実施
	3 月～	梅まつり、しょうぶまつり、Aフェスタ、光の祭典でPR活動実施
	7 月	「平成30年度 地下鉄8号線整備に向けた調査」を実施
	11 月	「地下鉄8号線整備促進大会」開催 平成10年以後、毎年度実施
平成 31 年	3 月～	梅まつり、桜まつり、しょうぶまつりでPR活動実施